

氏名	河原田 裕幸
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 229 号
学位授与の日付	昭和42年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	胆汁色素に関する研究 第1報 肝疾患の血清 bilirubin glucuronide 分画の臨床的意義 第2報 Bilirubin 3 分画法の検討
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 水原 舜爾

#### 学位論文内容の要旨

直接 bilirubin の本態を追求する際その分画法が問題となる点より、現在行なわれている代表的な bilirubin 3 分画法である山岡・小坂の chloroform 抽出法と Billing らの column chromatography による分画法を比較検討した。一方 bilirubin glucuronide の黄疸時における臨床的意義をも検討し、次の結果を得た。Billing らの Pigment I・II 分画は山岡・小坂の間接、塩型、ester 型 bilirubin の混合物であり、Pigment I は bilirubin monoglucuronide と言えず、間接、塩型 bilirubin をかなりの率に含んでいた。

Pigment II は大部分が ester 型 bilirubin であった。Glucuron 酸基は ester 型 bilirubin 分画にのみ陽性であり、bilirubin glucuronide としてみる場合 ester 型 bilirubin に対する glucuron 酸を mol 比で表わしてはじめて臨床的な意義を持つ。事実 mol 比は血清膠質反応とよい関係が認められ、mol 比 0.8 以下では大部分が肝硬変症であり、mol 比 0.6 以下を持続するものは予後不良であり、mol 比の上昇は経過の良好なことを示した。

Pigment I・II 分画と ester 型 bilirubin の azo 色素より生成される Pigment B 分画の mol 比は bilirubin glucuronide のみとする理論値 1.0 よりかなり低値であった。なお ester 型 bilirubin には glutathione 抱合と想定される分画を認めた。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、直接 bilirubin の本態を、黄疸血清、尿の分割について研究したもので、Billing らのいう Pigment I, Pigment II が単一な分割でないこと、bilirubin の抱合型のうち新しい型を発見したことなど、この分野に新知見を加えたもので、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。